広報 さめがわ 12
平成7年 No 504





笑点でおなじみの林家こん平さんの講演は健康の源、笑いがいっぱい



こん平さんの司会で行われたビンゴゲーム大会の入賞者には「ほっとはうす・さめがわ」家族ご招待

子どもに人気のアンパンマンショー



ストレス解消もぐらたたき

にぎやかに健康まつり

11月11日～13日まで第48回鮫川村文化祭の集中行事が行われ、12日には第6回健康まつりがにぎやかに開かれました。

発行／編集　鮫川村総務課　〒963－84 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39の5　TEL(0247)49-3111　印刷／佐藤印刷所

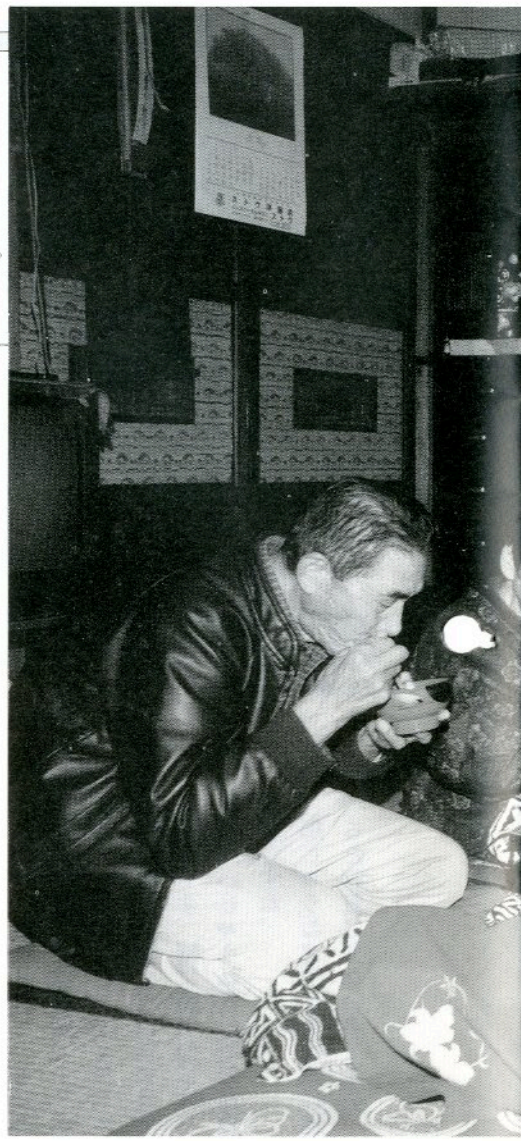
食べることは生きること



飽食の時代と言われる今日、腹を満たすだけの食糧で本当によいのだろうか。あえて、古きを尋ね「食べる」ということを探ってみたい。何百年もの間、なぜ、食べ続けられてきたのか。そして食べるということは生きるということ、それが「農業」であることを再認識したい。

えたい鮫川の食文化





渡瀬字福原の金澤壽光さんのお宅は壽雄さん夫婦・壽光さん夫婦・寿さん夫婦とお子さんがいっしょに暮らす4世代家族。夕食は一日の出来事を話す一家団らんのひととき。「おふくろの味」が伝えられています。



心のふるさと鮫川村

東京都目黒区悠々会会長　栗原　勇三

鮫川村の皆さん、こんにちは

私は、ここ一年ほど鮫川村の産直野菜を買ったり、ほっとはうす・さめがわに泊まってそば打ちやパラグライダー、こんにゃく作りなどをしてお世話になっています。

現在、東京の目黒区役所に勤務しています。仕事はいつも外に出て緑を増やしたり、公園の管理をしています。

生まれも育ちも東京の池袋です。小学校のころは、春は土手でよもぎを採って草もちを作った覚えがあります。わが家は米屋でしたが、父は仕事の合間に庭できゅうり、トマト、大根、小松菜、とうもろこし、メロンなどを作っていました。もちろん、鶏も飼い、鶏の世話は子どもの仕事でした。都会でも自給自足の生活をして、ほとんど肉は食べませんでした。

東京の街が変わったのは、昭和三十九年の東京オリンピックのころです。空き地、庭がなくなり、家が建ってきました。

今、毎日の食生活は子どもに安全な食物を探して食べています。雑穀入りのごはん、旬のものを旬に食べることを心がけています。自分自身の体をつくっている食物を大事にしていくことが大切だと思います。

鮫川村は自然が豊かな山村です。清らかな水、きれいな空気、空、星がきれいに見えます。

一年を通じていつでも安全でおいしい米、野菜、そば、山菜、きのこ、こんにゃくなどが食べられて「幸せ」だと思います。こんなすばらしい環境の中で生活している村の皆さんがうらやましいです。

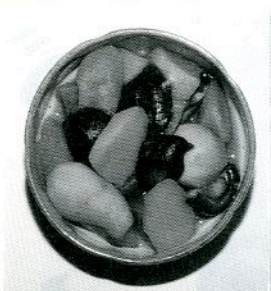
伝

鮫川村の郷土料理の特色と素材の特性を理解し、食文化を認識して伝承することと、農林産物の特産品開発を目的として農林産物特産品素材ほりおこし検討会が十二月五日開発センターで行われました。

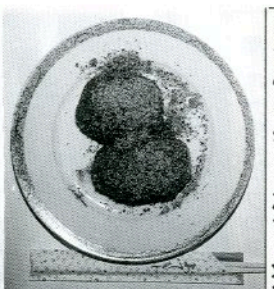
舟木トミさん（岡田）、我妻トシ子さん（落合）、阿久津澄子さん（折戸）、矢吹テル子さん（横座）、鈴木ヤヨイさん（馬場）、森フミさん（遠ケ竜）、青戸里子さん（彦次郎）、芳賀キヨさん（江竜田）、大竹睦子さん（青生野）の九人の皆さんに、今時分に食べる郷土食を作っていただき試食しました。下郷町在住の星孝光先生（会津の食文化を育てる会主宰）を講師に招き、郷土食についての講話を聞いたあと、全員で話し合いをしました。

鮫川村では、じゅうね（えごま）を使った料理やごぼうっぱ（山ごぼうの葉）を使った凍もちが全国的にも貴重なものであり、特産品としての可能性もあることを認識しました。

鮫川に今も残る郷土食



お煮しめ



じゅうねのぼたもち



白菜のじゅうね和え



いもがらのかす汁



人参と大根の酢の物

食は心の豊かさのバロメーター


メモをとりながら講話を聞く皆さん

食べ物の基本が郷土食

それぞれの地域、だいたい三里四方でとれた素材をその地域の作り方で作るというのが日本の食べ物の基本だったんです。昔は交通機関が発達していなかったので三里以上は行けなかったんですね。そして冷蔵庫などの保冷施設もなかったんですから、限られた素材の食べ物だったんです。それがいまなお、お祭りやお正月、お祝いのときに作られているものを伝統食・郷土食といいます。

全国的に伝統食・郷土食が残っているのは、京都、岩手県の遠野地方、信州、それと会津なんです。会津では仏事、お祭り、お祝いのときに昔のものが必ず作られているんですね。そういう郷土食が現在見直されて作られはじめてきたんです。

郷土食が見直される

郷土食は、一つは家族の「健康食」でした。

鮫川村でも作られているじゅうねは健康食では最高です。一番効くのはアトピーですね。アトピーの人が食べれば効果はてきめんです。特に鮫川のじゅうねは黒いじゅうねなので最高の品質ですね。

黒じゅうねは白じゅうねに比べると収量は少ないのですが、ごまは平坦地で作られました。じゅうねは山間部でも収量が高く、一年中調味料として使えました。春は、こごみやうどのよごしに、夏はうどんのたれに、そして団子のたれとか、田楽に、香りが強くて一年中使える調味料なんですね。昔の人は栄養価なんてわかるはずがなかったのですが、長い間の体験から高たんぱく質、高脂肪で健康に良いというのがわかったんですね。

名古屋大学の先生が十年くらい前にモルモットを使ってごまとじゅうねの油で実験したところじゅうねの方ががんになる率が低く、学習能力がものすごく高まるという結果を発表したんです。それからじゅうね料理が各地区に広まったんですね。

鮫川村でじゅうねを食べていたということは昔の人は立派なものを食べていたということになりますね。

二つ目は、お客様に対して愛と情すなわち心の豊かさを表す手作りの料理「もてなしの食」



星　孝光先生のプロフィール
昭和五年、福島県下郷町生まれ。農業改良普及所長、会津若松農政事務所長、県園芸農産課長などを歴任。会津の食文化を育てる会の主宰。

脂肪分とたんぱく質の栄養価がとても高いんです。

ごまと性質が似ていますが、じゅうねはごま科ではなく、しそ科で脂肪分の内容が違います。ごまはリノール酸といって菜種油、紅花油と同じく、じゅうねはリノレン酸で高血圧予防、がん予防、老人性痴ほう症予防、視力低下予防に良く、そしてアトピーに効くとお医者さんや栄養学者が発表したので健康食として一躍注目を集めたんですね。

じゅうねは正式にはしそ科のえごまといって山間部で作られ、



「郷土食」について真剣に

があったんですね。

三つ目は、冠婚葬祭に作られる「地域の食」があります。最近、祭りや伝統行事が復活してきましたが、それには必ず食べ物がついているから地域の食がまた盛り返してきたのが一つと戦後は全国どこに行っても刺身とかが最高のごちそうだったわけですが、今、東京から来た人に刺身を出してもだれも喜びませんよ。山菜とか、きのことかその地域でとれたものを食べたいという時代になりましたね。だから旅館などでもそれぞれの地域のものを使うようになりました。それと土産品もその地域だけのものに変わってきましたね。また、ふるさと宅配便なども地域の食ですね。

四つ目に、最近は学校給食にも郷土食が取り入れられています。戦後学校給食にパンと牛乳が入ってきましたが、それだけでは健康面でも、また子どもの情操教育や地域の食文化を教えていくという観点からも、パンと牛乳が減ってきて郷土食がどんどん献立に入ってきました。献立ばかりでなく食文化を教えながら、教育の一環として取り組んでいます。

今、なぜ郷土食なのか

郷土食というのは今から二〇〇～三〇〇年前に作られたものですが、現代のように多様化してフランス料理や中華料理が食べられる時代になぜ郷土食が見直されてきたのか不思議な話ですね。

では、郷土食がなぜ残っているのでしょうか。

一つは「うまい」おいしいからですね。

先人がうまい料理になるよう工夫したからですね。例えば会津のこづゆは代表的なものですが、こづゆは各具を全部下ごしらえしておきます。調理技術では最高でしょうね。各具の個性とうまみが残っていておいしい料理になります。うまみを作る調理技術が優れているんですね。この技術は料理学校に行っても教えてくれませんよ。会津の人は三〇〇年も前に完成された調理技術をもっていたんですね。

二つ目に栄養のバランスです。現在、栄養学的に食物繊維とミネラルの不足が問題になっています。西洋風の料理でビタミンとたんぱく質、でん粉だけの栄養素のものだけを食べているので大腸がんが増えていますね。ところが郷土食には食物繊維やミネラルが多く含まれています。健康食としてすばらしいものだったんですね。

身近な素材が基本

食べ物は、その土地でとれた身近な素材をその土地の作り方で作るというのが基本です。では会津の身欠にしんがなぜ身近な素材だったのでしょうか。昔北海道ではにしんが大量に水揚げされ値段も安くて浜の人たちは食べなかったんです。山間部の人たちの魚だったんです。それが北前舟で新潟に来て会津にも出回り、大衆の身近な素材となりました。それをナマのものよりも上手においしく、栄養価を高めて利用したのが、にしんの山しょう漬け、すし漬けなんです。発酵させて保存するわけですから利便性も最高なわけです。

郷土食は「おいしい食べ物がある」「発酵技術が優れている」「健康食である」「身近な素材を上手に活用している」だから今も残っているんですね。

料理は心の豊かさを表す

会津では晴れ食（行事食）として、葬式や結婚式、祭りにその食が残っているということは律義さがあるということです。郷土食を支えるということは基本的に心が豊かでなければ残りません。食べ物がなくなってしまいます。

作り方と化学的な合理性があり、心の豊かさがなければ、郷土食は残りません。

食の課題

これからの食の課題は、第一に健康性、安全性の問題です。つまり西洋風の食べ物になったことで、動物性のたんぱく質と脂肪、糖分の取り過ぎが一番の問題となっています。ですから日本型の食生活に戻りましょうといわれているんです。また、これからは、化学調味料や防腐剤の入ったものは食べないようにしましょうと、そういう時代になります。つまり、安全性が求められます。

第二に食べ物の利便性が要求されています。女性の社会進出がますます進む中で、時間をかけないで手早くできる料理が求められていますが、郷土食には発酵の技術の優れているものや保存性もありますので、ちょっと手を加えれば食べられるという料理が沢山あります。

第三に飽食の時代になっても、「うまいもの」が求められています。本物の味、手作りの味、珍しい味、自然の味が高品質となるんです。そうすると、おふくろの味、郷土食が全部合致するんです。だから今郷土食が求められているんです。

ほんものの豊かさを求めて

農業を見直しましょう

忘れかけていた農業者の誇り

「本当の野菜の味を知りました。」、「久しぶりに大根の葉を食べました。」、「人参を生のままかじってみたら、甘かった。」そんな便りが農産物産地直売会を行った後に、届けられるようになりました。

余った自家用野菜を何とかできないかと、試行で始めた農産物直売。収益は少なくとも、多くの人に出会い、触れ合うことにより、多くのことを学びました。そして、忘れかけていた農業者としての誇りと、自信をとり戻し、農村に生きるすばらしさを感じています。さらに、より良いものを、喜ばれるものを届けたいという思いがわいてきます。

単品大量生産が近代農業だと推し進められ、大規模化、産地形成だけがあたかも農業の本質かのようにいわれ、生産と生活がいつの間にか切り離されてきました。それについていけない中山間地の農業は、魅力のない産業として、農村は暗いイメージで描かれ、お金で買うものだけを価値があるかのように、それがいかにも豊かさかのような錯覚さえ起こっています。

安全な食が求められる時代

都市住民が食べ物に危機感を抱き、安全性を求めているのに、農村住民は、食べ物の生産を捨てようとしています。産直や交流を通して感じた価値観を自分の足もとから見つめ直す必要があるのではないでしょうか。

おじいちゃんやおばあちゃんが、孫や家族のために、健康を考え、農薬を使わず、堆肥をたっぷり入れて、手間暇かけて、愛情込めて作った野菜は、都会の人には手に入らない高価なものなのです。一番安心して食べられる野菜なのです。

輸入野菜が大半を占めるスーパーから、本当に安心して食べられる野菜を探すのは容易なことではなく、食べ物を〝生命〟と考えている人たちから産直へと目が向けられています。そこには、安心して食べられる野菜があるからです。自分で作ることのできない都市住民にとって、「安全な食べ物」それは「作った人の顔が見えること」であり「作ったところがわかること」、「自分が納得できること」つまり、安心して食べられることなのです。

食べる人が作る人を理解し、作る人が食べる人を考える。それが人と人との触れ合いであり、心と心が結び付いて農村と都市との交流につながるものだと思います。

農業はいのちの産業

自然に人間が働きかけてできたものが農産物であり、それらを食べることによって、人間が生き、心が育ちます。

農業はまさに命の産業であり心の産業であり、そして、生きた教材であると思います。

農村に住む私たちは今、それらの誇りすら忘れ去ろうとしているのではないでしょうか。

おじいちゃん、おばあちゃんが一生懸命作ってくれた野菜を台所の片隅に置いたままにしていませんか。子どもたちに、食べることの重要性をきちんと伝えていますか。今一度、自分たちの足元を見つめ直し、何が豊かさなのか考えてみる必要があるのではないでしょうか。



鹿角平で行われた産地直売会



鮫川村と野菜たち

旬菜クラブ　有田士郎

私が鮫川村の野菜たちに会ったのは、今から四年前のことです。

野菜に旬があるということは知っていたのですが、東京で永

東京の学校給食に、使いたい鮫川の野菜

最近、新聞で話題になる学校給食。「地元野菜を学校給食へ」とか「地場、産直型の学校給食を導入」とか、学校給食の在り方され変わりつつあります。

十一月三十日、東京都目黒区立中学校の栄養士さんたち九人が来村し、鮫川の野菜をぜひ学校給食に使いたいという話がありました。なぜ、鮫川の野菜をわざわざ使うのか、一緒にきた校長先生は「最近、地方をはじめ全国で地元野菜や有機、低農薬の野菜を通して、地域農業の大切さと、食べ物の安全性と必要性を考えるという運動が広まっています。ところが、残念なことに、目黒区には地元のものが何一つないのです。せめて、この野菜は福島県の鮫川村でとれた野菜です。鮫川村はこういう所だよ。と、言えるものがほしい」と言います。

ここに農村と都市との交流が生まれ、農村と都市との自給ラインが生まれるのだと思います。

また、ある栄養士さんは「産直品を使うことは、調理師さんが大変です。でも、家庭で作られなくなった手間暇かかる料理を学校給食で補いたい、それが食べ物に対する教育ですから、そして、食べ物の教育は子どものうちが大切ですから・・・」という言葉の中に学校給食もまた教育の場なのだという信念を感じました。

こんなにまで、村でとれる野菜は価値のある野菜なのです。

足元を見直してみましょう

忘れられようとしている「農業」と「食べるということ」を今だからこそ思い起こしてみてください。スーパーに足を運ぶのではなく、できるだけ多く自分の家の畑に足を向けてみてください。価値あるものがいっぱいあります。山には、まだまだ自然の恵みがたくたんあります。それらを財産とし、大切にしていくことによって、地域がよくなり、地域がよくなれば、農村と都市とのいい関係が生まれるように思います。

村内にもいくつかの農産物直売グループが生まれています。始まったきっかけは様々で、米作りや農村体験、郷土料理であったり、鮫川村に借家をもっている人であったり、個人的に行っている人も何人かいるようです。

いずれも農村を誇りに思い、自分の作物に自信をもち、人と人との触れ合いを大切にし、心と心の結びつきを大切にした交流なのです。その交流が確実に、そして、静かに広がっているのです。

まず、家庭から自給ラインを作り、地域へ、そして都市へと広がれば、華やかさはなくても、また、楽しい、違った農業になるのではないかと思います。

いあいだ生活していると野菜の旬はおろか春夏秋冬さえ忘れてしまいがちです。

鮫川村で知り合った農家の方々から届けて頂く有機栽培の野菜で季節感と同時に、野菜の本当の美味しさを思い知らされ、一人でも多くの方々に本当の旬の安全な鮫川村の野菜たちを知ってもらいたくて、旬菜倶楽部をスタートさせました。

生産者の皆様、どうぞ鮫川村の野菜たちを大事に育ててください。

幸せのおすそわけ

農産物直売グループを始めないか。と言われた時、農作物価格の低迷で何を栽培して良いかわからない現状の昨今、畑の片隅に申し訳け程度に植え付けてある家庭菜園の多種類の野菜にどんな価値があるだろうか、足元を見つめ直そうといってもどんなものかと、いまひとつ本気で取り組む姿勢が足りなかった私でした。

そんな平成七年六月のある日ほっとはうすで、東京目黒区役所職員の方たちとの交流会が催され、私たちが普段、何気なく食べているじゅうねぼたもちや、手作りこんにゃくの刺身、山菜のてんぷら、ふきやうどの油いためを心を込めて作り、食卓を飾ってあげたときのことです。皆さんの反応といったら、「本物の最高のぜいたくを味わったのは生まれて初めてだ」。「毎日おいしい空気の下で旬の恵みをいただけるなんてうらやましい限りです。」と喜びと、感激の言葉をいただきビックリしました。こんなにも自然に憧れている人たちがいたなんて、ほんとうに驚きました。



農産物直売グループ
かぼちゃ美人の会会長
鈴木リキ

この鮫川の大地で育った山菜や野菜は村民皆んなの財産であり大切にしながら育てていかなければなりません。そして私たち仲間が受けた感動を心の糧に一人でも多くの会員と共に、地元の良さを見直すきっかけづくりになる会として発展していきたいと考えます。

そして、ふるさとの味を愛してくださり、待っている方たちに新鮮さとおいしさに真心を添えて幸せのおすそわけを続けていきたいと思います。

こんにちは保健婦です


村山保健婦


鈴木保健婦

おかわりありませんか

各種団体が力を合わせて

第６回健康まつり

11月12日村の文化祭行事の１つとして、健康まつりが開発センターで行われ、各種団体が力を合わせた楽しいお祭りとなりました。今回は、その各種団体の取り組みを、ご紹介したいと思います。



保健推進員の取り組み

今年度の保健推進員の活動目標は、「高脂血症（コレステロールなどが高い方）予防」で、特に心筋梗塞、脳梗塞の予防を推進することを目的としています。

今回の健康まつりでは、高脂血症を予防する食事として「血液と血管をきれいにする食事」と「米の消費拡大」をテーマとして住民の方々にさんまのマリネ、おにぎりなどを五百食準備し、試食コーナーとして広めました。

魚の嫌いな子どもたちが多いなか、「残さずに食べてもらえて良かった」と感激している推進員さんもいました。

ウォーキング鮫川の会 食生活改善ボランティアの会 共催の取り組み

ウォーキング鮫川の会

楽しく歩くことを広めている自主的な組織で、昨年から健康まつりに参加し、「さめがわ健康づくりの道ウォーキング大会」を開催し、今回は、健康の道のウォーキングとスポーツかるたとりを担当しました。約六十人の方々の参加があり、とてもいい汗をかきました。

鮫川村食生活改善ボランティアの会

栄養教室を修了した方、保健推進員を卒業した方からなる自主的な組織です。健康に生きるために、特に「食」の部分を推進している方々であり、村の食文化を若い人々に伝えたり、村でとれる作物を利用した食卓づくりを組織の目標としています。

今回の健康まつりでは、自分の家でとれた大根を持ちより、手づくりおでん（ゆずみそ・からしみそ）二百食を作り、健康まつりの参加者に食べていただきました。



鮫川村婦人会の取り組み

婦人会では、福祉チャリティーバザーとして毎年参加しています。

自分の家でとれた作物や、家の押入などにねむっている品物を、安く住民の方々に買っていただき、その売り上げの一部を社会福祉協議会に寄付していただいています。



あなたの地域の保健推進員です

シリーズ7　赤坂東野・石井草区



三瓶ナミ子
（伊柳沢、戸草上）

保健推進員としていろいろ勉強させていただいております。自分なりに吸収したことを地域のために十分役立てたいと思います。残された時間を大切に活動していきたいと思います。



斎藤美津江
（広畑2.3.4.5組）

保健推進員の仕事は多種多様で2期目になってやっと内容がわかってきました。会社を休んで出席し一生懸命活動する推進員の皆さんに、地域の方のご協力に感謝しながら頑張ります。



水野　洋子
（内ケ竜、楢久保、大房、中内）

現代は、いつでも何でも手に入り、おいしいものが自由に食べられるけれども、旬の物、旬の味を大切にしたいですね。そして家庭の味、おふくろの味を残してあげたいと思います。



前田　悦子
（官代）

保健推進員で今まで学んだことを家庭に取り入れ、推進員の後半を精いっぱい頑張っていきたいと思います。



佐藤　春枝
（遠ケ竜、小名沢、大石草、大根屋敷）

地域の皆様が毎日元気な笑顔で幸せに暮らせるよう、アドバイスしてあげたいと思います。



阿久津キミ
（宮ノ草、滝ノ下、蕨ノ草）

保健推進員になって、いろんな所の視察研修や料理実習、人との付き合いを学んでいます。これからも勉強していきたいと思います。



中川西ステ
（石井草、前田）

都合のつくかぎり出席し、地域のために活動していきたいと思います。



鈴木恵美子
（大竹、木戸沢、戸草下）

突然保健推進員になり推進員の大きな役割を知り、その大切さを知るこのごろです。ほんの少しでも誰かの役に立つことができればと思います。



結核は昔の病気ではありません

結核は、結核菌を吸い込むことによって感染する、細菌性の伝染病です。菌が肺の中に入っても、多くの場合発病しません。しかし、その人の健康状態が悪いと、結核菌が活動をはじめ、病気が進行すると菌が増殖し、激しいせきやたんが出ます。

棚倉保健所管内の結核り患率は減少傾向にありますが、若年層の結核、初感染結核や高齢者の患者発生が増加し、特に定期結核検診、精密検査未受診者から重症の患者発生が多くみられるため、若年層及び小児結核の根絶と、高齢者の結核患者の早期発見に努めています。

また、棚倉保健所管内では、ツベルクリン反応陽転率が低いことから、母親から小児への結核感染を防止するため、定期検診を受診できない母親や保護者などに対し、保健所で行う乳幼児健診時に希望者に結核検診を実施します。

※対象者　東白川郡内町村の住民検診対象者で、定期の結核検診を受診することができない方。

※実施内容

▽胸部X線直接撮影

▽健康相談（料金は無料）

※実施日

▽一般住民

平成七年十二月十九日（火）
平成八年一月九日（火）
二十三日（火）
平成八年二月六日（火）
二十日（火）

▽乳幼児の保護者

平成八年一月十日（水）

棚倉保健所で行う乳幼児四カ月健診時に保護者などの希望者に実施します。

※時間　午後一時～四時

※場所　棚倉保健所

※検診申込方法

電話受付（実施日の三日前までに希望日時を連絡）

※申込先　棚倉保健所健康課

☎0247-33-2241



また来年も、いろいろな取り組みを楽しみにしていま～す！

受賞おめでとうございます

大池基義さん 勲五等瑞宝章受章



前鮫川郵便局長の大池基義さんは、永年にわたり郵政業務に精励された功績が認められ、このたびの秋の叙勲で勲五等瑞宝章を受章されました。





大池さんは大正十四年生まれで現在七十歳、昭和三十九年に鮫川郵便局長に就任以来、二十四年の永きにわたって郵政業務に携わり、鮫川郵便局舎の新築や各種の郵便事業、個人生活安定のための郵便貯金や簡易保険事業の推進さらに村内への電話の普及と、テレビの難視聴解消のための共同アンテナ設置など村の情報施設発展に大きく寄与されました。

勲章の伝達は、十一月二十日自宅で行われ感激を新たにしました。

なお、大池家では太弥様、康義様、基義様と三代にわたる叙勲です。

民生委員・児童委員に委嘱状交付

任期満了による民生委員の一斉改選で次の方が新しい民生委員・児童委員に委嘱されました。

委嘱状交付式は十二月一日役場会議室で行われ、厚生大臣と福島県知事の委嘱状が交付されました。

民生委員は、生活上のあらゆる相談に応じ、住民福祉についての指導や、行政とのパイプ役となります。また、児童委員も兼ね、子育て環境づくりや健全育成にも携わります。

主任児童委員は、特定の区域を持たずに村全域の児童福祉問題に関する相談に応じ、児童委員と連携をとりながら指導にあたり、アドバイザーとなります。

本村の民生委員定数は十六人でうち五人が新任、十一人が再任となり、主任児童委員の小松幹夫さんも再任となりました。

民生委員、児童委員の任期は平成十年十一月三十日までの三年間です。

なお、過日の協議会総会で民生委員総務に鈴木一実さん、職務代理者に高木勝美さんが選任されました。今後の活躍が期待されます。

どうぞ気軽にご相談ください。



石井利勝さん（再）
西山字大沢



北條恵三さん（再）
赤坂西野字押目



矢吹定子さん（新）
赤坂西野字仁田



鈴木長一さん（再）
赤坂東野字大石草



中川西安正さん（新）
石井草字森ノ前



生方スミさん（再）
赤坂中野字道少田



高木勝美さん（再）
赤坂中野字薄ケ久保



円谷菊重さん（再）
西山字鬼越



鈴木一実さん（再）
西山字鐘撞堂

税務表彰

十一月十三日、白河税務署の平成七年度納税表彰式が白河市で行われ、藤田一夫さん（赤坂西野字本坂）が、村税継続完納の推進に大きく貢献された功績が認められ、新白河地区納税貯蓄組合連合会長表彰を受けました。また、鮫川村青色申告会会長の湯坐啓亘さん（赤坂中野字新宿）には、青色申告の普及啓蒙に貢献された功績が認められ青色申告制度施行四十五周年記念感謝状が贈られました。

結婚相談員制度がスタート



将来の鮫川村を担う後継青年の結婚難を解消するため、このほど鮫川村結婚相談員が設置され、十一月十五日第一回の会議が開かれました。

相談員には、農業委員、行政区長、学識経験者による二十六人が委嘱されました。

相談員の職務は

一　未婚者のための結婚相談及び仲介

二　結婚適齢者のデータ収集

三　国際結婚に関する調査及び情報の収集

などの事業を行い、任期は三年間となっています。

また、結婚相談員協議会も設置され、会長に船木彦助さん（農業委員会長）が、副会長に鈴木辰男さん（農業委員会長職務代理者）、高坂久男さん（赤坂西野区長）が選ばれました。

会議終了後、フリージャーナリストの西沢江美子先生を講師に招いて結婚問題講演会が開かれ、若者の意識や最近の結婚の形態、農村の結婚実情、魅力あるふるさとづくりについて聴講しました。

どうぞお気軽にご相談ください。

媒酌人に奨励金を支給します

村内に住む後継者を確保するため、配偶者を媒酌した方に媒酌人奨励金を支給します。

支給の対象は、いずれも婚姻後引き続き村内に住む後継者に配偶者を媒酌した場合で

配偶者が村内→一組二〇〇〇〇円

配偶者が村外→一組三〇〇〇〇円

を支給します。

詳しいことは、村農業委員会におたずねください。



蛭田吉郎さん（再）
渡瀬字田野上



松本好雄さん（再）
富田字鍬木田



青戸学男さん（新）
富田字彦次郎



鈴木和代さん（新）
赤坂東野字蕨ノ草



小松幹夫さん（再）
主任児童委員



石井重春さん（再）
渡瀬字青生野



中島唯男さん（再）
渡瀬字青生野



芳賀寛一さん（新）
渡瀬字江竜田

鮫川村農林業等活性化基盤整備計画を策定

鮫川村のような中山間地域の農林業及びその他の事業の活性化のための基盤整備を促進することを目的に制定された「特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」（平成５年６月16日法律第72号）に基づき、本村も特定農山村の指定を受けました。

この法律の趣旨に基づき、「鮫川村農林業等活性化基盤整備計画」を今年６月策定しました。

計画の内容は、第１に農林業を中心に商工業の活性化の目標、第２に活性化を図るための措置、第３に活性化のための道路等公共施設の整備に関する事項、第４に基盤整備に関し必要な事項、第５に基盤整備に際し配慮すべき事項を定めました。これらの中身は、第二次「鮫川村振興計画」に即し作成をしたものです。

この計画を具体化するための推進事業として、本年から平成11年までの５カ年にわたり「中山間地域活性化推進事業」を実施することにしました。

事業の内容は次のとおり計画しておりますので、事業に関するお問い合わせやご意見がありましたら役場農林課へご連絡ください。

1　活性化推進のための企画、調査等事業

活性化のための調査、研究、企画を行うとともに、活性化推進センターを設置します。

2　農林業などを担うべき人材の育成、確保事業

①　地域リーダー養成研修
地域のリーダーの方に各種研修へ参加していただきます。

②　新規就農者技術研修
新規就農者が技術習得のための研修を支援します。

③　老人・婦人生産活動支援事業
老人や婦人のグループが農作物の生産・販売を行うのを支援します。

④　イメチェン農業体験事業
児童、生徒に農業を体験してもらい、理解を深めてもらうための事業です。

3　新規作物の導入、生産方式の改善、農業経営の改善を保進する事業

①　主に新規作物の導入試験、販売戦略を確立するための事業です。

－シリーズ④－

基礎学力向上をめざして
鮫川小学校で学習指導法研究会



豊かな実りと色鮮やかな紅葉を演出してくれた秋が、初冬の装いに変わりつつある十一月二十九日に、鮫川小学校で第三回目の学習指導法研究会が開催されました。

鮫川小学校では、「学習したことを生かし、自ら課題を解決しながら確かな基礎学力を身に付けていく指導はどうあればよいか〔国語科『言語事項を踏まえた読解』・算数科『数と計算』の指導を通して〕を研究主題に掲げ、今まで研究してきた成果を発表しました。

この研究会は、年度当初から予定されていたこともあり、村の小中学校の先生方のほとんどが参加され、授業参観をした後国語科と算教科の二つの分科会で「子どもたちに確かな基礎学力を身に付けさせる授業はどうあればよいか」ということについて熱心な協議が行われました。

特に、研究協議の焦点となったことは、

《国語科では》
① 言葉を大切にすること
② 音読を取り入れて学習を進めること

《算数科では》
① 数のもつイメージをしっかりつかませること
② まとめの時間と習熟の時間を確保すること

でした。

この研究協議の締めくくりとして、指導助言の先生から、今後の研究のあるべき方向としての指針も示されました。

このように先生方が一堂に会し、研究を深め合うことが、明日の授業改善・子どもの基礎学力向上に役立つことが実感できる研究会となりました。

あなたの愛をありがとう



十月十九日、採血車が来村し農協渡瀬支所前と役場前で献血が行われました。尊い生命を救うための献血に四十九人の方からご協力いただきました。

献血された方は次のとおりです。全血献血者の◎は四〇〇㎖の献血の方です。（敬称略）

※成分献血

▽斉須寛一（新宿）▽芳賀正人（上）

※全血献血者

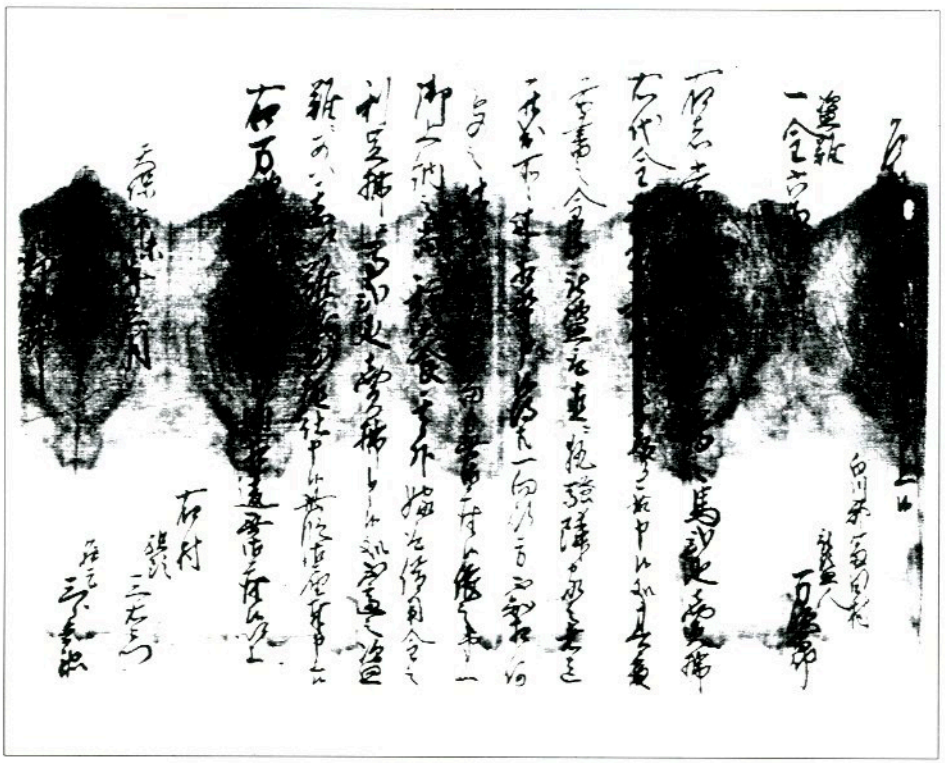
◎石井幸男（矢祭町）◎近藤誠一（田尻）◎蛭田セツ子（中野町）◎我妻英樹（落合）◎青戸秀樹（前沼）◎石井政夫（酒垂）◎石井豊（酒垂）◎木之内まゆみ（下）◎小池久美子（宿ノ入）◎近藤保弘（新宿）◎斉藤利己（広畑）◎鷺野谷弘行（二反田）◎鈴木初枝（新宿）◎鈴木真理子（大塩）◎鈴木守弘（馬場）◎添田サチエ（鍬木田）◎中川西幸雄（森ノ前）◎生田目誠（青生野）◎船木博枝（反田）◎舟木正博（石の花）◎星恵（蕨平）◎矢吹智広（塩倉）◎湯坐美知男（真坂）◎吉田初男（楢久保）◎我妻久子（落合）▽赤坂和子（中野町）▽蛭田祐子（田野上）▽矢吹美智枝（遠ケ竜）▽青砥ハツ子（塙町）▽薄井崇（古殿町）▽小山田一成（反田）▽柿沼美津恵（戸草）▽金沢和幸（大根屋敷）▽白坂澄江（茅）▽神宮太子（楢久保）▽鈴木正人（大石草）▽須藤カヨ（後田中）▽宗田輝子（道少

史・資料を探る

村史編さん室

天保六未年三月（一八三五）

金子盗難届



天保六年は今から百六十年前のこと、天保四年の大凶作以後不作続きのさなか、富田村万次郎が所持していた馬売払代金六両壱分の金子をその夜何者かに盗み取られ、難儀に立ち至ったことを塙代官所へ届けた文書です。

二年後の弘化二巳年の三カ宿（竹貫、石川、塙）平均相場による年貢金納の石代は、「金壱両に付、米七斗六升弐合弐勺八才」と塚本村書留に記されています。これをもとに計算すればおよそ米四石五斗六升（十一俵半）生産者米価二万円とすれば二十二万円ほどとなります。今日の金銭感覚とは異なっているので、六両といえば大金でした。

万次郎はこの金の当てとして、御上納金、種子代、夫食代、嫁取借用金の利子払いを上げている点に注目しなくてはなりません。

組頭三右衛門、名主三郎兵衛の名で届書が出されました。当時の塙代官は辻富次郎です。

乍恐以書付御届奉申上候

白川郡富田村

盗難　被盗人　万次郎

一金六両壱分也

右は当三月十日、私所持の馬弐疋売払い、右代金請取私宅へ罷り帰り居申し候処、其の夜前書の金子盗み取られ、直ちにとりさわぎ隣家の者迄罷出、所々辻々相尋ね申し候得共、一向行方知れず何ものの仕業とも思い当たり御座なく候、これによって御上納の当て、種夫食其の外嫁取借用金の利足払いに馬弐疋売払い申し候処、不慮の盗難にあい甚だもって難儀至極仕り申し候、此の段、御届け申し上げ候

右万次郎申し上げ候通り相違御座無く候、以上

右村
組頭
三右衛門

天保六未年三月

名主
三郎右衛門

塙
御役所

この時代には、寛政四年以降二十年余に及んだ寺西代官の民政により、凶作などによる困窮百姓の救民の施策として「拝借金制度」が定着していました。村々が代官役所から借り受けて個々の当該者へ割り付けました。種子代、夫食代、婿取り、嫁取り費用、農具代、火災などによる家作の費用などが、村役人からの願い出により貸与されました。

利子並びに元金の返済は、年貢同様取り立てられたので、当座の難儀はしのぐことができたものの、その後の支払いの負担は結局万次郎の場合、大切な馬も売らざるを得なかったものと思われます。

▽溝井君江（新宿）▽村山義美（小野町）▽中川西智（石井草）▽外全血献血者匿名希望一人
▽田子久子（真坂）▽円井義人（芦ノ草）▽蛭田昌一（田尻）▽星秀子（蕨平）▽前田雅美（官代）▽水野清美（古殿町）

お知らせ

広報にあなたの写真が出ていたらご連絡ください。さしあげます。

役　場　☎49-3111
鮫川村大字赤坂中野字新宿39-5

農業委員会委員選挙人名簿登載申請を忘れずに

農業委員会では、「農業委員会に関する法律」に基づいて、毎年一月一日現在で農業委員会委員の選挙人名簿を作成し、その名簿を委員会で審査し、村選挙管理委員会に提出することになっています。

この申請書を基礎に、「農業委員会選挙人名簿」が作成されます。

次の〔選挙権を有する資格要件〕を参考に、もれなく名簿登載申請書に記入し、各組長さんを通じ、平成八年一月十日までに農業委員会事務局に提出してください。

〔**選挙権を有する資格要件**〕

一　平成八年一月一日現在鮫川村に住所を有し、昭和五十一年四月一日以前に生まれた方

二　十アール以上の農地を耕作している方。

三　二の配偶者及び同居の親族で、年間おおむね六十日以上耕作に従事する方。

12月・1月健康カレンダー

種別	実施日時・場所	対象者
三種混合予防接種	12月15日(金) 午後1:30～3:00 村診療所	Ⅰ期初回・追加　3か月～7歳6か月のお子さん Ⅱ期　小学校6年生 母子健康手帳、予診票持参
母子健康手帳交付日	12月20日(水) 午前9:00～9:10 開発センター	妊娠と診断された方本人 印鑑持参
1歳児健康診査	1月9日(火) 午後1:00～1:30 開発センター	平成6年11月・12月、平成7年1月・2月生まれのお子さん、母子健康手帳、歯ブラシ、コップ持参
4か月児健康診査	1月10日(水) 午後1:00～1:30 棚倉保健所	平成7年8月・9月生まれのうち4か月になったお子さん、母子健康手帳 バスタオル持参
三種混合予防接種	1月12日(金) 午後1:30～3:00 村診療所	Ⅰ期初回・追加　3か月～7歳6か月のお子さん Ⅱ期　小学校6年生 母子健康手帳、予診票持参

ご利用ください　国の教育ローン

国民金融公庫では「国の教育ローン」を次により貸し付けしています。

※応募資格　高校、短大、大学専修学校、各種学校、養護学校の高等部、外国の高等学校など（六カ月以上の留学）に入学、在学される方または保護者

※融資金額　学生、生徒一人につき百五十万円以内

※利率　年三・二五％（平成七年十一月十日現在）

※融資期間　八年以内（在学期間以内で元金据置可能。ただし最長四年）

母子家庭は一年の延長が可能

※使いみち

▽入学時に必要な費用（入学時学校納付金など）

▽在学中に必要な費用（授業料、学校納付金など）

※返済方法　元利均等毎月払い（ボーナス併用返済なども可能）

※保証　（財）教育資金融資保証基金または保証人一人以上

※申込窓口

郡山市清水台一丁目六番二十一号

国民金融公庫郡山支店

（☎0249-23-7140）

自衛隊生徒を募集中

自衛隊では、自衛官として給与・手当をもらいながら一般の高等学校と同じ教育を受け、三年間の教育終了時高等学校の卒業資格を修得できる自衛隊生徒を次により募集しています。

※資格　日本国籍を有し、平成八年四月一日現在十五歳以上十七歳未満の男子で中学校卒業者（平成八年三月卒業見込みの方）

※受付　平成八年一月四日まで

※試験日　平成八年一月六日

※試験場　福島地方連絡部

〒960　福島市南町八十六

☎0245（46）1920

※志願書類の請求　福島地方連絡部に請求してください。

※　詳しいことは、白河募集事務所（☎0248（24）0372）



心象舎主催の第四十回全国学校書道展で、赤坂博史さん（渡瀬字木之根・鮫川中学校二年）の作品「漁火」が見事文部大臣奨励賞を受賞しました。赤坂さんの作品は塙町の清水書院から出品されたもので、今後の赤坂さんの活躍が期待されます。



中学生の税に対する関心を高め、正しい知識をもっていただこうと、福島県が毎年行っている「税に関する作文コンクール」で、金澤かおりさん（赤坂東野字真坂・鮫川中学校三年）の作品が佳作に選ばれました。今年は県内の中学生から千五百六十二編の応募があり、県南地方からは唯一の入賞となりました。

赤い羽根共同募金
歳末たすけあい募金
ご協力ありがとうございました



平成七年度の赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金を実施しましたところ、皆さんから温かいご協力をいただき、目標を上回ることができました。心から御礼申し上げます。

募金額並びに使途は次のとおりです。

※募金目標額
九七三、〇〇〇円

※募金実績額
一、〇〇五、三二一円

▽内訳
行政区　八八八、五五五円
職域　一一四、六一二円
窓口　二、一五四円

※使途
▽共同募金
六八二、三二一円
▽堀川愛生園後援会募金
六〇、〇〇〇円
▽歳末たすけあい募金
二六二、〇〇〇円

共同募金は、県内市町村の福祉事業などへ、歳末たすけあい募金は、村内の要保護世帯と長期入院者、各施設の入所者に越年見舞金として十二月中に差し上げることにしています。

戸籍手数料が変わります

平成８年１月１日から戸籍謄本などの交付手数料が次のとおり改定されます。

書類	手数料額
① 戸籍の謄抄本	１通　４５０円
② 除籍の謄抄本	１通　７５０円
③ 戸籍に記載した事項に関する証明	証明事項１件　３５０円
④ 除籍に記載した事項に関する証明	証明事項１件　４５０円
⑤ 届出・申請の受理証明書又は届書その他の書類の記載事項の証明書	１通　３５０円
⑥ 上質紙を用いた受理証明書（婚姻・離婚・養子縁組・養子離縁又は認知の届出）	１通　１，４００円
⑦ 届書その他の書類の閲覧	書類１件　３５０円

なお、住民票・印鑑証明などについては今までと同額です。

国税だより

法定調書の提出は一月三十一日まで

給料、報酬、不動産の使用料などの支払者は、その支払先ごとに支払金額や源泉徴収税額などを記載した書類（法定調書）を税務署に提出することになっています。

今年の法定調書の提出は、一年間の支払い分を取りまとめて平成八年一月三十一日までです。

提出された法定調書は、適正な課税を行うための重要な資料となります。

詳しいことは、郡山税務相談室（☎０２４９－３４－６３００）白河税務署（☎０２４８－２２－７１１１）におたずねください。

今月の納付

村県民税　4期分
国民年金保険料　12月分
納期限　12月20日

寄附ありがとうございました

社会福祉事業のために

○大久保　生田目　芳様
○東京都新宿区
（官代　前田正則氏宅入居）
江副　彰義様
○鮫川村婦人会
会長　松本　マサ子様
○塙町　福島県南環境衛生センター　理事長　本田　昌雄様

心配ごと相談

12月20日(水)
午前十時～午後三時
山村開発センター

なお、午後一時から午後三時までは弁護士が相談を受けますので、ご利用ください。

村のできごと



火遊びはしません

11月22日　鮫川保育所で模擬防火訓練が行われました。訓練は保育所内からの出火を想定し、非常ベルがなると子どもたちは先生に誘導されて保育所前の広場に避難しました。また棚倉消防署鮫川分署の消防車、救急車も出動して火の恐ろしさを学びました。



ナマの演劇に感動

11月16日　福島県教育委員会と鮫川村教育委員会などが主催する家庭劇場が開発センターで行われました。村内小学校の児童を対象に普段みることのできない舞台芸術、児童劇「グリムのハンスと大悪魔」を鑑賞しました。「グリムのハンスと大悪魔」はグリム兄弟原作の劇でヨーロッパの森に囲まれた小さな村を舞台にハンス少年が悪魔と戦い継母を助ける物語で、子どもたちは目をキラキラと輝かせ舞台に見入っていました。



火の守りは万全

11月5日　消防団と棚倉消防署鮫川分署合同の火災防御訓練が行われました。鹿角平観光牧場共同調理場からの出火を想定し、第一・第五分団、鮫川分署のポンプ車と、第七分団の小型動力ポンプ二台が出動し、中継、送水などの技術向上、敏速で的確な連系活動を訓練し、防御体制の確立を図りました。また、これから火災の多発期を迎えるにあたり、消防団員が各家庭を巡回して火の用心を呼びかけました。

フォトルポ・



楽しいひとときを

11月15日　ひとり暮らしのお年寄りの皆さんに、ひとり暮らしの寂しさを忘れて楽しいひとときを過ごしてもらおうと、中ノ沢温泉で「ひとり暮らし老人慰安会」が行われました。二十四人の皆さんが参加し、ようじ入れ作り、ベンチサッカー、座布団とりゲームなどのレクリエーションで楽しく交流しました。また車中でも和やかに歌が飛びだし、日ごろの寂しさを忘れ楽しい一日を過ごしました。



ふくしま駅伝
村の部で五位入賞

11月19日　第七回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会が白河・福島間で行われました。鮫川村チームは、十区の我妻由美子さん（清陵情報高三年）、十三区の岡部直三さん（日清食品）が村の部で区間賞に、十五区の中川西浩二さん（コニカ）が市町村を通しての区間賞をとり、総合で三十二位、村の部で五位と今年も「駅伝に鮫川あり」と県下に名をとどろかせました。

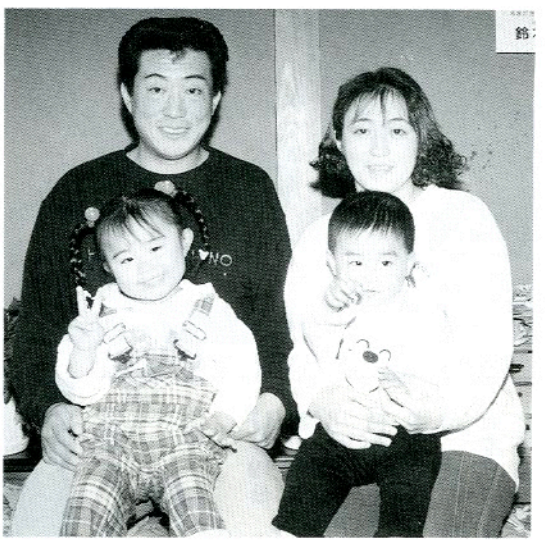


"むじなっぱたき"

11月9日　富田館山会（会員九人、鈴木幸夫会長）で「むじなっぱたき」が行われました。地区の子どもたち十二人が家庭を回り、みょうがの茎をしんにしてわらで束ねた棒で地面をたたきながら「むじなっぱたきのお祝いで貧乏神たたき出せ、福の神持ち込め」と元気よく厄を払い、五穀豊穣と無病息災を祈願しました。

ふれあいひろば

ふたりで♡バトンタッチ♡♡♡



高坂隆之・みゆき さん

（赤坂西野字上）

55

隆之さんは上の高坂章さんの長男、みゆきさんは棚倉町の出身で、平成四年三月七日に結婚式を挙げました。

友達の紹介で知り合ったお二人の第一印象は、お互いに「目の大きな人」だったそうです。

隆之さんはみゆきさんの「細かいところまでよく気が利くところ」に、みゆきさんは隆之さんの「何事にも一生懸命でひょうきんなところ」にひかれたそうです。

長女美香ちゃん（三歳・写真左）と長男和樹くん（一歳・右）の二人のお子さんに恵まれ、もう一人か二人ほしいというお二人です。

現在、隆之さんは家業の有限会社高坂軌道工業の後継者として仕事に励み、みゆきさんは子育てに専念しています。

「軌道の仕事は、時間が不規則なので健康管理にかなり気をつけています」というみゆきさん。

家族みんなが健康で、明るい家庭にしたいというお二人です。どうぞいつまでもお幸せに。

次は

高坂正男・ハツヨさんに

バトンタッチ

東京鮫川会からこんにちは



中井邦雄 さん

東京都足立区在住
赤坂東野字広畑出身

第八回「高原の鮫川うまいもの祭り」に、前田、鵜殿、青盛、森山、私ども含めて五家族で参加をさせていただきました。

秋晴れの下、阿武隈山脈につつまれた鹿角平が、人の波でうもれてゆく光景は心が躍ります。ぜひ後学のためにお勧めいたします。

思いがけなく旧友と盃を重ねることも出来ましたし、そば、肉も鱈腹食べました。

故郷鮫川の躍動をうれしく思い、振興協議会芳賀会長さんをはじめとし、関係者皆様方の剛力を敬う気持ちを表し、東京にもどりました。

それで一句

天高く唄に太鼓に無礼講
鹿角平酒のうまさよ

おたより

田辺敏子 さん（千葉県松戸市在住）

季節ごとの木綿の手拭いに染み込んだ人々の笑顔や汗や涙がありました。

今この上もなく膨らむ郷愁は、私の年齢が手伝うせいもありましょうが、やっぱり変らぬ土の匂い、季節感、隣近所のおばさんたちの素朴さ、そして何より兄や義姉たちと囲む食卓の上には母の匂いのする「ふるさと料理」と一緒に過ぎ去った昔も大事に載せて、賑やかに迎えてくれるからなのでしょう。

広報紙をめくるたび、村内の皆さんの笑顔が語りかけてる気がします。

「いつでも帰っておいで」と父と母の眠る大地。もう一度帰りたい幼なかったころに。

これからも私の生まれ育ったふるさとを誇りに思い、こよなく慈くしんでいくでしょう。





文芸

俳句

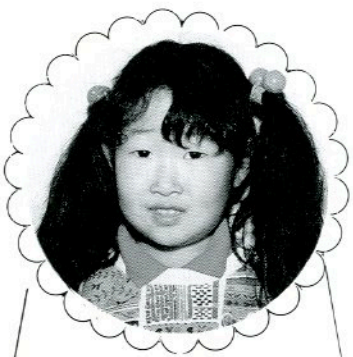
福島市　中井　恒峯
天高く国体の鳩舞上る
白河市　矢部　正子
刈る稲の香を全身に茜雲
反田　小山田清哲
谷川を流れる紅葉魚のよう
二反田　大平　太平
幸せの雫手で受けトマト食う
道少田　山本　朗史
母となる犬の目の澄み冬に入る
押目　北條素人坂
磐梯路巡り巡りて秋高し
横座　矢吹　茂
稲刈りを終りし畦にいなご追う
新宿　斉須　信子
山峡の満月冷やし初時雨
いわき市金沢　暁舟
秋日暮ポプラ並木を牛戻る
前沼　黒田　寿香
潦(にわたづみ)北風に毛を立て猫走る
道少田　山本五十鈴
木枯しに急きたてられる物の影

短歌

名下　須藤美代子
鍬先に堀り起されし埋け栗の秋
深き陽に光りてまろぶ
越虫星　武
芽ざしして鉢に移せる大菊の咲き初めるらし軒端に映えて
田苗下　蛭田　浩市
わが余生満たす政治と思わねど投票にはゆくバイクに乗りて
大戸中　小松セツ子
眠れざる夜を傾けし一杯の酒にも酔えず寂しさの増す
本坂　藤田　末光
野良帰り老妻の肩にしっかりと重なるイナゴ身じろぎもせず
沼の沢　本郷　チヨ
国体の村役員の着る制服黄の色は夫の年齢かくす
楢久保　森　芳子
健やかに暮せる日日をしみじみと謝しつつ憩いの濡縁に座す
酒垂　石井　カヤ
戦後五十年苦楽の道を歩みきて今夫とふたり語り草もつ
中野町　赤坂　朝子
暑き日も遠のきており川堤ゆけばほろほろ萩のこぼるる
本坂　藤田　初枝
日溜りでままごと遊びの輪の中をとびてトンボの一つも遊ぶ
大石草　鈴木イミ子
壊されし母屋のあとに佇つゆうべ秋冥菊が白く匂いり
田苗下　蛭田　正
猪苗代湖の波わたりくる風ありて刈田に鳴ける白鳥の二羽
官代　前田　栄美
去年まで小鳥の餌にせし柿をめんどうだけどむいて干そうか
大塩　岡部　シゲ
立冬の風吹き荒ぶ庭先にささんかの花淡々と咲く
岫長　北條　平
霜白き朝は手に息吹きかけて穫入れ後の片づけをする
大塩　水野　フク
朝夕の手足の冷えに独りごと言いつつ炬燵われは出し来る
大塩　鈴木　クニ
生あらば五十路半ばの息の写真学生服でわれを見ている

むし歯のない子あつまれ〜 1

平成3年8月1日〜平成4年7月31日生まれで3歳児健康診査時むし歯のなかったお子さんを紹介します。



矢吹由香ちゃん
（平成3年8月25日生）
矢吹和浩・久美さんの長女
赤坂東野字遠ケ竜

1日3回きちんと歯みがきをしています。おにいちゃんが幼いうちにむし歯になってしまったので、由香はむし歯にならないよう気をつけました。あまり甘いものを食べないことも良いのかもしれませんね。

（おかあさん）



蛭田麻弥ちゃん
（平成3年9月19日生）
蛭田重夫・タツ子さんの二女
渡瀬字下

2歳くらいまでチョコレートを食べさせませんでした。おやつは菓子類ではなく生野菜を食べさせています。朝と夜は家族みんなで歯みがきをしています。

（おかあさん）

訪ねてみませんか鮫川の30景 ⑳



戸草峠（とくさとうげ）



大字赤坂東野字大石草から戸草に抜ける中間地点で、西方が開け、那須連峯を望むながめは絶景です。戸草峠は村道遠ケ竜戸草線の頂上付近で、車で通り抜けることができるため、村内屈指の展望地です。現在、頂上付近は雑木が育ち眺望がきかなくなってきましたが、大石草側から登ると眺望できる場所があります。那須連峯方向に沈む夕日は格別の感銘を与えてくれます。

こちら窓口

お誕生おめでとうございます

住所	赤ちゃんの名前	月/日	保護者
前沼	青戸聡一郎	10/8	青戸正彦
巡ケ作	湯座摩美	10/19	湯座章次
越虫	藤田朔人	10/20	藤田美光
関口	下重知香	10/26	下重三男
西野沢	芳賀由里	10/26	芳賀正次
反田	松本一樹	11/5	松本一
青生野	長久保恵里	11/5	長久保仁一
鍬木田	小嶋明恵	11/7	小嶋満

おくやみ申し上げます

住所	亡くなられた方	年齢	世帯主
前田	前田ナツ	72	前田甲子男
大久保	生田目政芳	87	生田目マツ

10月21日～11月20日までの届け出

今月の人口(11月1日)

人口	世帯
5,065人（－6）	1,121戸（＋1）
男	女
2,509人（－2）	2,556人（－4）

休日のお医者さん

月日(曜)	棚倉町	塙町	石川町
12月17日(日)	杉山胃腸科外科皮膚科 ☎33-7551	—	石川中央医院 ☎26-2024
23日(土)	和田医院 ☎33-2012	中島医院 ☎43-0373	大野病院 ☎26-1181
24日(日)	勝田医院 ☎33-3008	車田病院 ☎43-1019	矢吹医院 ☎26-1048
29日(金)	—	—	中島病院 ☎26-3415
30日(土)	—	—	田中内科医院 ☎26-3333
31日(日)	大木医院 ☎33-2424	塙厚生病院 ☎43-1145	鹿岡産婦人科医院 ☎26-2623
平成8年1月1日(月)	東白川中央病院 ☎33-3263	石川医院 ☎43-0003	務川医院 ☎26-5585
2日(火)	藤田医院 ☎33-2013	—	大野病院 ☎26-1181
3日(水)	あらまちクリニック ☎33-8018	—	添田医院 ☎26-2538

ごみは分別して収集日に出しましょう

収集場所	種別	12月	1月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	4.7.11.14.18 21.25.28	8.11.18.22 25.29
	不燃物	8.22	12.26
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	4.7.11.14.18 21.25.28	8.11.18.22 25.29
	不燃物	6.20	10.24
鮫川分校（可燃物木曜のみ）	可燃物	4.7.11.14.18 21.25.28	8.11.18.22 25.29
鮫川中学校コース	不燃物	7.21	11.25
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	6.13.20.27	10.17.24.31
	不燃物	6.20	10.24
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	6.13.20.27	10.17.24.31
	不燃物	7.21	11.25
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	6.13.20.27	10.17.24.31
	不燃物	8.22	12.26
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	6.13.20.27	10.17.24.31
	不燃物	15	19

＝あとがき＝

♥今月は「農業と食」について特集しました♥先人が食べていたものが合理的で、健康食であり、文化を伝えるものだったこと、私たちが伝承しなければ消え失せてしまうということを改めて認識しました。「飽食の時代」であるからこそ、食にこだわりをもちたいと思います♥そして暗いイメージにみられがちな農業がまさに「いのちの産業」であることを決して忘れてはいけないと思います。（石）